

総評

今期は、物流業や建設業において残業時間の上限規制がスタートし、働き方改革が求められているが、賃上げや労働時間削減、週休2日を実施できる企業は一部に留まり、思うように採用も進まず、慢性的な人手不足が続き、働き方改革も道半ばとなっている。資材価格やエネルギー価格、労務単価の上昇などで建築コストも大幅にアップし、持家の新設住宅着工戸数は低調。衣料品、家電などでも物価高騰の影響で消費マインドが高まっていない。大半の業種でコスト増加分を価格転嫁したい意向はあるが、競合先との兼ね合いや消費者の買い控え不安から再三の値上げを厳しくしている。券売機を導入している飲食店では、新紙幣導入による機器の更新負担を抑えるため、当面旧紙幣と交換で凌ぐ方針の店舗も見受けられた。

来期は、エネルギー消費が増える夏を迎え、さらなる光熱費の高騰が収益を圧迫することを懸念。補助金の後押しもあり、省エネ設備への買い替え需要も見られるが、物価高騰が消費意欲や設備投資意欲を減退させることも懸念される。来年放送されるNHK朝の連続ドラマの主人公のモデルが小泉八雲の妻「セツ」に決まり、2人に着目した土産品等の商品開発意欲や観光誘客促進に期待が集まっている。

		前期状況 (1～3月期)	今期状況 (4～6月期)	来期見通し (7～8月期)	調査事業所のコメント
建設業		➡	➡	➡	今期は、完成工事額、新規受注工事額ともに前年同期以上の水準で推移している。4月より時間外労働の上限規制が適用され、労働時間の制約が求られているものの、業界全体で担い手不足が顕著であり、入職者推進が喫緊の課題である。また、建設資材価格も依然として高止まり状態にあり収益圧迫を招いている。 来期は、松江市総合体育館の改修工事関連や松江市庁舎第2期棟工事関連等の公共需要はもとより、住宅・商業施設等の民間による造成工事による需要にも期待する。
		➡	➡	➡	今期は、生産については上昇傾向にあるものの、原材料価格の上昇、人件費の増加等により、収益を圧迫した状況が続いている。また、従業員・熟練技術者の確保難という課題がある。「島根県エネルギーコスト削減対策緊急支援事業補助金」などを活用し、設備の更新を行う事業所も増えてきている。 来期は、盛夏を迎え空調等の使用頻度も増加するため、電気料金のさらなる負担増が懸念される。
		➡	➡	➡	今期は、物流2024年問題による輸送費の高騰や円安による輸入コストの上昇に加え、消費低迷から飲食関係の引き合いに一服感が見られ、価格転嫁に取り組むも、度重なる仕入価格の高騰に追い付かないとの声が聞かれた。物価高による消費者の購買意欲の低下が大きく、少しでも安価な商品を購入するような傾向が見受けられる。 来期は、運送事業者の輸送費の上昇に加え、物流の効率化に向けて方策を模索しているところである。
小売業	衣料品	⬇	⬇	➡	今期は、物価高騰の影響により来店客が減少した。猛暑の影響により夏物衣料のシャツなどの動きは良かったが、スーツ等のビカジ化もあり、量販店やファストファッション店に消費者が流れたため、衣料専門店の売上は振るわなかった。来期は、残暑が厳しさを増す中、秋物衣料のジャケットやパンツ等の動きが鈍くなることが懸念される。また、物価高騰が長引くことでますますファストファッションに消費者が取り込まれることが予想されるため、夏物セールや固定客への販促活動に注力することで売り上げ増につなげていくことが期待される。
	家電	➡	➡	➡	今期は、最高気温上昇に伴いエアコン需要に動きが見られた。一方で、物価高の影響が続いており、全体として消費拡大には至っていない。また、法令でエアコン穴あけ工事時のアスベスト事前調査や対策工事が必要となっており負担が増している。 来期は、企業においては島根県ならびに松江市が公募するエネコス補助金を活用した設備更新、個人においては夏物商品需要に期待したい。
	自動車	⬇	⬇	➡	今期は、認証申請におけるデータ試験の影響による一部車種の生産・出荷の一時停止等を要因に、新車販売の停滞傾向が強まり総じて新車登録台数は前年同期比減少。 来期は、実質賃金が物価上昇に追いついていない状況が長期化しており、消費マインドの弱さが目立っているものの、新車の需要は新型車を中心に底堅く、一部車種においては生産・出荷を再開していることから、登録台数が伸びるものと予想。
	スーパー	➡	➡	➡	今期は、ゴールデンウィークによる人流活発化により売上や客単価が増加。梅雨入りの遅れによる行楽・イベント需要も好材料となっている一方、急激な気温上昇や低下が相次ぎ、商品の売れ行きも左右された。また、仕入れ価格の高騰による商品値上げも続いている。 来期は、商品単価の上昇が続くと予想されるが、節約志向による内食需要も受け堅調な売れ行きが期待される。また、猛暑の到来による夏物商材の動きの活発化にも期待。
	土産品	➡	➡	➡	今期は、前半は観光関連の来客客も増え、お土産需要も増加したことから、売上点数は増えたものの、売値が上がったため売上は横ばい。店舗の光熱費等固定費の高止まりに加え、今期後半は、来客客も減少したことと地元客の購買が減少したため売上が若干減少。 来期は、夏季休暇もあることから、観光客、帰省客の動きに期待。
	飲食	➡	➡	➡	今期は、総体的には前期と比較して売上が増加している店舗が多かったものの、依然として地元客主体の Snackbar 等では客足が戻っていない。一部店舗では、客足は増えたが従業員不足により回転率が下がる状況が見られた。原材料や光熱費の高騰が続くなかで、券売機を設置している店舗では新紙幣対応にも迫られるなど新たな負担を余儀なくされた。 来期は、夏休みシーズンを迎え観光客需要には期待できるものの、地元客は物価高騰で外食意欲の低下を懸念。
サービス業	旅館・ホテル	➡	➡	➡	今期は、5月の大型連休などもあり、宿泊客数は前年同期比で増加した。閑散期の冬場に宴会場を客室に転換したホテル・旅館も多く、客室稼働率も高まっているが人手不足の影響で業務は多忙を極めている。 来期は、夏休み等の観光シーズンを迎えるため、観光需要に引き続き期待する一方で、天候不順によるキャンセル等の発生に懸念。
	運輸・旅客	➡	➡	➡	今期は、運輸業では料金改定により全般的に積荷の出荷量が減少傾向にある。旅客業では観光や学校行事等の貸切バスやタクシー需要は多い。一方、人手不足・働き方改革により、乗務員確保は、会社によってバラつきが見られ一部で機会損失が発生している。 来期は、運輸業では料金改定や様々なコスト上昇の影響があり出荷量が不透明な状況である。旅客業では夏季旅行需要に期待する。